



(株)ルミネ カーボン・オフセット試行事業への参加について

株式会社ルミネ Sachiko Yoshida
施設管理部 吉田 祐子

1. はじめに

ルミネは、首都圏におけるJR東日本の主要駅12か所で、ショッピングセンターを運営しています。この度、環境省の「カーボンオフセットの取り組みに関わる第三者認定施行事業」のプロジェクトに参画し、高知県における間伐材を利用した「排出量取引地域モデル事業」から生成されるJ-VERを活用し、ルミネの事業活動の一部（社員の通勤等）によって排出されるCO₂をオフセットする取り組みを行っております。本取り組みまでに至った経緯及び概要についてご紹介いたします。

2. 参加までの経緯

ルミネは建設後25年を経た古い建物が多いため、老朽化した空調設備機器の取替を順次計画的に行ってきましたが、その内4件は環境省のCO₂削減に関する補助事業に応募し採択を受けることができました。事業完成後のCO₂削減量は目標を816トン上回ることができ、その分は2008年夏に排出量取引参加プロバイダーに売却を行いました。このほか本事業を通じて、省エネ効果に優れた最新鋭設備の導入が図られただけでなく、機器のコンパクト化により生み出されたスペースの倉庫や店舗等への再活用等々、様々な副次的なメリットも多く得られました。当社では、得られたメリットのうち削減量を上回ったCO₂の売却資金については、更なる環境保護活動への活用できないものかと考えていたところに、タイミングよく高知県とのカーボン・オフセットのお話を頂きました。ルミネのこれまでの環境活動は、8年余り継続しているISO14001以外ハード的要素の強いものが多かったため、カーボン・オフセットといった今までになかった斬新的な考え方に大変魅力を感じ、参加に至った次第です。

3. 取り組み内容

「カーボン・オフセット」のオフセット側は、まず日々のCO₂排出量を認識し、それに対して削減

努力目標を定め、できなかった分をオフセットするという流れになります。オフセットメニューを決定する際は、限定された部署・一部社員ではなく、会社の取り組みとして多くの社員が意識し参加できるものにしたいと考え、どの社員だれもが毎日行う「通勤」という行動に注目しました。ルミネ新宿地区の社員を中心に、現状の通勤ルートでどのくらいの排出量があるのか、またどのようなルートにすれば削減になるのかを、誰でも簡単に算出できるシートを用いて、個人で検討してもらいました。バスを自転車にしたり、電車一駅分歩いたり、個人毎に様々な案がありましたが、それらを2008年8月～10月を実施期間とし、毎日実行できたかできなかったか、記録表に付けていき、最終的に実行できなかった分のCO₂排出量を高知県が間伐のために必要とした費用と相殺し、オフセットするという流れです。また、「通勤」以外にも、“NO 残業による事務所照明節減”や“電力を使うEVではなく、階段を利用する”など、様々な省エネメニューにも取り組みました。

気軽に取り組むことができるメニュー設定を行ったため、実施期間中は、皆で声を掛けあったり、実施状況を確認したりと、楽しみながらも、自らの行動がCO₂削減に直結していることを実感しつつ、取り組みを行うことができました。

4. 実施効果

今回、第三者機関により厳格に検証された間伐によるCO₂削減量をクレジットとして当社が買うことで、高知県での森林整備に役立てて頂きますが、当社ではあくまでも“地球環境保護”という社会的責任を果たすための、ボランティアな取り組みと捉えています。また、取り組みを終えて、社員の環境への意識の更なる高まりや、数値的な省エネルギー効果も成果として目に見えています。今後も、カーボン・オフセットという一連の流れを、信頼でき、誰もが使いやすい凡用システムに作り上げるためのお手伝いできればと考えております。